

教員養成の目標を達成するための計画 一覧

免許状の教科の上をクリックすると該当ページが開きます。

研究科	専攻等	免許状の種類	免許状の教科	
神学研究科	神学専攻	中学専修	宗教	
		高校専修	宗教	
文学研究科	文化歴史学専攻	中学専修	社会	
		高校専修	地理歴史	公民
	総合心理科学専攻	中学専修	社会	
		高校専修	公民	
	文学言語学専攻	中学専修	国語	英語
			フランス語	ドイツ語
		高校専修	国語	英語
			フランス語	ドイツ語
法学研究科	法学・政治学専攻	中学専修	社会	
		高校専修	公民	
経済学研究科	経済学専攻	中学専修	社会	
		高校専修	地理歴史	公民
商学研究科	商学専攻	高校専修	商業	
理工学研究科	数理科学専攻	中学専修	数学	
		高校専修	数学	
	物理・宇宙物理学専攻	中学専修	理科	
		高校専修	理科	
	先進エネルギーナノ工学専攻	中学専修	理科	
		高校専修	理科	
	化学専攻	中学専修	理科	
		高校専修	理科	
	環境応用化学専攻	中学専修	理科	
		高校専修	理科	
	生物科学専攻	中学専修	理科	
		高校一種	理科	
	生命医科学専攻	中学一種	理科	
		高校一種	理科	
	情報工学専攻	中学専修	数学	
		高校専修	数学	情報
言語コミュニケーション 文化研究科	言語コミュニケーション 文化専攻	中学専修	英語	
		高校専修	英語	
教育学研究科	教育学専攻	幼稚園専修	(幼稚園)	
		小学校専修	(小学校)	
		中学専修	社会	
		高校専修	公民	

教員養成の目標を達成するための計画

＜神学研究科神学専攻＞（認定課程：中専免（宗教））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	「旧約聖書学特殊講義C」「旧約聖書学特殊講義A」等を履修することによって、キリスト教の背景となっているユダヤ教の歴史や思想についての専門的な知識を身につけると共に、古代宗教文献を理解し、現代的な意味を読み解く力を養う。
	秋学期	「新約聖書学特殊講義D」「新約聖書学特殊講義B」等を履修することによって、ユダヤ教からキリスト教が誕生する過程やその共通点や違いを理解する。さらに古代ヨーロッパ社会の歴史や文化とキリスト教との関わりに関する専門的な知識を身につける。
2年次	春学期	「歴史神学特殊講義C」「歴史神学特殊講義A」等を通して歴史認識を養い、主としてヨーロッパや日本の歴史におけるキリスト教の果たしてきた役割を理解する。さらに様々な文化の中に息づいているキリスト教や宗教を読み解く力を養う。
	秋学期	「組織神学特殊講義B」「組織神学特殊講義D」「キリスト教思想特殊講義B」「キリスト教思想特殊講義D」等を履修することによって、キリスト教思想を歴史的なかつ体系的に理解し、キリスト教についての深い知識を身につけ、それを自分との関わりにおいて考察する能力を育てる。 2年間の研究演習を通じて、高度な専門知識を養い、自ら宗教科の課題に関わる問題を発見し、解決する力を身につける。さらに、その研究成果を修士論文としてまとめることを通して、専門知識に裏打ちされた自己の学問的主張を説得的に表現する力を身につける。

＜神学研究科神学専攻＞（認定課程：高専免（宗教））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	「旧約聖書学特殊講義C」「旧約聖書学特殊講義A」等を履修することによって、キリスト教ならびに現代社会を理解するために、ユダヤ教の歴史や思想についての専門的な知識を身につける。ヘブライ語聖書など古代宗教文献を理解し、そこから現代的な意味を読み解く力を養う。
	秋学期	「新約聖書学特殊講義B」「新約聖書学特殊講義D」等を履修することによって、ユダヤ教からキリスト教が誕生する過程やその共通点や違いを理解する。さらに古代ヨーロッパ社会の歴史や文化とキリスト教との関わりに関する専門的な知識を身につける。キリスト教の視点から他宗教との対話、文化の理解を深める。
2年次	春学期	「歴史神学特殊講義C」「歴史神学特殊講義A」等を通して歴史認識を養い、主としてヨーロッパや日本の歴史におけるキリスト教の果たしてきた役割を理解する。さらに様々な文化の中に息づいているキリスト教や宗教を読み解く力を養い、歴史を学ぶことを通してキリスト教の現代的な意味について考察する力を養う。
	秋学期	「組織神学特殊講義B」「組織神学特殊講義D」「キリスト教思想特殊講義B」「キリスト教思想特殊講義D」等を履修することによって、キリスト教思想を歴史的なかつ体系的に理解し、キリスト教についての深い知識を身につける。それを自分との関わりにおいて考察し、現代社会が直面している問題に対する関心を高め、それに対してキリスト教の視点から考察し、また発言する能力を育てる。 2年間の研究演習を通じて、高度な専門知識を養い、自ら宗教科の課題に関わる問題を発見し、解決する力を身につける。さらに、その研究成果を修士論文としてまとめることを通して、専門知識に裏打ちされた自己の学問的主張を説得的に表現する力を身につける。

教員養成の目標を達成するための計画

＜文学研究科文化歴史学専攻＞（認定課程: 中専免(社会)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、専門領域の特殊講義および研究演習、ならびに関連隣接領域(哲学・芸術史・地理学・日本史学・アジア史学・西洋史学・考古学等)の特殊講義等の履修を通じて、中学「社会科」で扱う広範な知識領域についての深い学修を進める。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義を通じて、中学「社会科」で扱う広範な知識領域についての深い学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった隣接学問領域等の特殊講義等を通じて、中学「社会科」で扱う広範な知識領域についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて、専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文化歴史学専攻＞（認定課程: 高専免(地理歴史)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、それぞれ専門領域の特殊講義および研究演習、ならびに関連隣接領域(芸術史・地理学・日本史学・アジア史学・西洋史学・考古学等)の特殊講義等の履修を通じて高校「地理歴史科」で扱う知識領域についての深い学修を進める。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義および研究演習を通じて、高校「地理歴史科」で扱う知識領域についての深い学習を進めるとともに、修士論文作成準備を通じて、問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった隣接学問領域等の特殊講義履修を通じて、高校「地理歴史科」で扱う広範な知識領域についての学習をさらに進めるとともに、修士論文執筆準備を通じて、専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	修士論文の執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文化歴史学専攻＞（認定課程: 高専免(公民)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、それぞれ専門領域の特殊講義および研究指導、ならびに関連隣接領域(哲学・倫理学・心理学・社会心理学等)の特殊講義の履修を通じて、高校「公民科」で扱う知識領域についての深い学修を進める。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義および研究指導を通じて、高校「公民科」で扱う知識領域についての深い学習を進めるとともに、修士論文作成準備を通じて、問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった隣接学問領域等の特殊講義履修を通じて、高校「公民科」で扱う広範な知識領域についての学習をさらに進めるとともに、修士論文執筆準備を通じて、専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	修士論文の執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・文章化といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科総合心理学専攻＞（認定課程: 中専免(社会)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、心理学領域にあっては心理学や関連領域の特殊講義・研究演習を通じて、中学「社会科」の知識領域についての深い学修を進め、学校教育学領域にあっては「学校教育学特殊講義」等で教職についての高度の理解を育成する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義等を通じて、中学「社会科」で扱う知識領域および教職に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった隣接学問領域等の特殊講義等を通じて、中学「社会科」で扱う知識領域および教職についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科総合心理学専攻＞（認定課程: 高専免(公民)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、心理学領域にあっては心理学や関連領域の特殊講義・研究演習を通じて、高校「公民科」の知識領域についての深い学修を進め、学校教育学領域にあっては「学校教育学特殊講義」等で教職についての高度の理解を育成する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義等を通じて、高校「公民科」で扱う知識領域および教職に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった隣接学問領域等の特殊講義等を通じて、高校「公民科」で扱う知識領域および教職についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:中専免(国語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「日本文学特殊講義」「日本語学特殊講義」を通じて日本文学・日本語学に関する深い学識を形成するとともに、文献研究を通じてテキストの高度の「読み」について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、中学「国語科」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、中学「国語科」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:中専免(英語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「イギリス文学特殊講義」「アメリカ文学特殊講義」「英語学特殊講義」を通じて英米文学・英語学に関する深い学識を形成するとともに、文献研究を通じて英文によるテキストの高度の「読み」について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、中学「英語科」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、中学「英語科」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:中専免(フランス語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「フランス文学特殊講義」「フランス語学特殊講義」を通じてフランス文学・フランス語学に関する深い学識を形成するとともに、文献研究を通じてフランス語文献の読解について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、中学「フランス語科」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、中学「フランス語科」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:中専免(ドイツ語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「ドイツ文学特殊講義」「ドイツ語学特殊講義」を通じてドイツ文学・ドイツ語学に関する深い学識を形成するとともに、文献研究を通じてドイツ語文献の読解について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、中学「ドイツ語科」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、中学「ドイツ語科」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:高専免(国語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「日本文学特殊講義」「日本語学特殊講義」を通じて日本文学・日本語学に関する深い学識を形成するとともに、漢文学・中国文学についての理解を深める。さらに文献研究を通じてテキストの高度の「読み」について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、高校「国語科」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、高校「国語科」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:高専免(英語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「イギリス文学特殊講義」「アメリカ文学特殊講義」「英語学特殊講義」を通じて英米文学・英語学に関する深い学識を形成するとともに、文献研究を通じて英文によるテキストの高度の「読み」について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、高校「英語科」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、高校「英語科」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:高専免(フランス語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「フランス文学特殊講義」「フランス語学特殊講義」を通じてフランス文学・フランス語学に関する深い学識を形成するとともに、文献研究を通じてフランス語文献の読解について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、高校「フランス語」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、高校「英語」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

＜文学研究科文学言語学専攻＞（認定課程:高専免(ドイツ語)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	文学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「ドイツ文学特殊講義」「ドイツ語学特殊講義」を通じてドイツ文学・ドイツ語学に関する深い学識を形成するとともに、文献研究を通じてドイツ語文献の読解について習熟する。
	秋学期	春学期に引き続き、特殊講義・文献研究等を通じて、高校「ドイツ語」で扱う知識・技能に関する高度の学習を進めるとともに、研究演習を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・文献研究等を通じて、高校「ドイツ語」で扱う知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、研究演習と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、みずから設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて特殊講義等の履修により知識の深化をはかる。

教員養成の目標を達成するための計画

＜法学研究科法学・政治学専攻＞（認定課程：中専免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	法学研究科独自の理念である「ソーシャルアプローチ」の理念に基づき、学部で得た知識をより一層深めるとともに、法学・政治学の研究を進めていく上で必要な姿勢と能力を養う。
	秋学期	修士論文執筆準備などを通して、自らが設定した諸課題について論理的に考察・分析する能力を培うとともに、法と政治に関する専門的な科目を広く履修することで、公正な判断の基礎となる知識の深化を図る。
2年次	春学期	修士論文の執筆やゼミ形式の科目を通じて、理論と実務を並行して研究を進めていく過程において、収集した資料を多面的多角的に考察する力を身につけ、生徒に対して適切に表現する能力と態度を養う。
	秋学期	法学・政治学の専門的研究を進めるとともに、修士論文を執筆する過程において身につけた教養や知識と、TA（ティーチング・アシスタント）として得た実践的な経験を連携させ、幅広く複眼的な視野を持った社会科教員としての資質の育成を目指す。

＜法学研究科法学・政治学専攻＞（認定課程：高専免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	法学研究科独自の理念である「ソーシャルアプローチ」の理念に基づき、学部で得た知識をより一層深めるとともに、法学・政治学の研究を進めていく上で必要な姿勢と能力を養う。
	秋学期	修士論文執筆準備などを通して、自らが設定した諸課題について論理的に考察・分析する能力を培うとともに、法と政治に関する専門的な科目を広く履修することで、公正な判断の基礎となる知識の深化を図る。
2年次	春学期	修士論文執筆や、ゼミ形式の科目を通じて理論と実務を並行して研究を進めていく過程において、収集した資料を多面的多角的に考察する力を身につけ、生徒に対して適切に表現する能力と態度を養う。
	秋学期	法学・政治学の専門的研究を進めるとともに、修士論文を執筆する過程において身につけた教養や知識と、TA（ティーチング・アシスタント）として得た実践的な経験を連携させ、幅広く複眼的な視野を持った社会科教員としての資質の育成を目指す。

教員養成の目標を達成するための計画

＜経済学研究科経済学専攻＞（認定課程：中専免（社会））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	経済学研究科の教育理念及び、認定を受けている専修等の教員養成に関する理念に基づき、社会科教員に必要な概念と理論的・実証的・歴史的な思考力を習得する。現実の経済分析に応用できる経済学に関する深い学識を形成し、経済学の理論的方法・実証的方法・歴史的方法の基礎を固める。
	秋学期	春学期に引き続き、経済学研究科で開講している特殊講義・応用専門科目を通じて、中学「社会」で扱う知識・技能に関する高度な学習を進めるとともに、絶え間なく変化する現実の中で国際的な視野と多元的なものの見方をバランスよく習得する。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・応用専門科目を通じて、中学「社会」で扱う知識・技能をさらに深める。教員による熱心な指導の下、修士論文執筆をすることで自らの考えを集約する力を習得し、義務教育や後期高等教育で社会科学的な視点に立ち、生徒の教育・指導にあたる教育理念を理解する。
	秋学期	経済学研究科で開講している特殊講義・応用専門科目・修士論文執筆を通じて経済学研究科で得たより高度な経済学的知識や、経済学研究の経験を基礎に、現代社会・政治経済分野に立つ視点から、地理歴史的分野をも含む義務教育段階における「中学校社会」全般を俯瞰する。

＜経済学研究科経済学専攻＞（認定課程：高専免（地理歴史））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	経済学研究科の教育理念及び、認定を受けている専修等の教員養成に関する理念に基づき、地理歴史科教員に必要な概念と理論的・歴史的な思考力を習得する。特殊講義・応用専門科目からより高度な理論的・歴史的な思考力を身につけ、日本や世界の経済事情、歴史、言語、文化、そして宗教に関するより応用的な知識を習得する。
	秋学期	春学期に履修できなかった特殊講義・応用専門科目を通じて、より高度な理論的・歴史的な思考力を身につけ、日本や世界の経済事情、歴史、言語、文化、そして宗教に関するより応用的な知識を養成する。
2年次	春学期	更に、第1年次で履修できなかった特殊講義・応用専門科目を習得することで、高校「地理歴史」で扱う知識・技能をさらに深める。教員による熱心な指導の下、修士論文執筆をすることで自らの考えを集約する力を習得し、生徒の教育・指導にあたる教育理念を理解する。
	秋学期	経済学研究科で開講している特殊講義・応用専門科目・修士論文執筆を通じて経済学研究科で得たより専門的な経済学的な知識や、論理的思考力、データ分析力を活かして諸外国とのつながりが増す現代に生きる高校生への「地理歴史」の指導力を習得する。

＜経済学研究科経済学専攻＞（認定課程：高専免（公民））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	経済学研究科の教育理念及び、認定を受けている専修等の教員養成に関する理念に基づき、社会科教員に必要な概念と理論的・実証的・歴史的な思考力を習得する。現実の経済分析に応用できる経済学に関する深い学識を形成し、経済学の理論的方法・実証的方法・歴史的方法の基礎を固める。および、応用的な学識を習得する。
	秋学期	春学期に引き続き、経済学研究科で開講している特殊講義・応用専門科目を通じて、高校「公民」で扱う知識・技能に関する高度な学習を進めるとともに、絶え間なく変化する現実の中で国際的な視野と多元的なものの見方をバランスよく習得する。
2年次	春学期	第1年次で履修できなかった特殊講義・応用専門科目を通じて、高校「公民」で扱う知識・技能をさらに深める。教員による熱心な指導の下、修士論文執筆をすることで自らの考えを集約する力を習得し、義務教育や後期高等教育で社会科学的な視点に立ち、生徒の教育・指導にあたる教育理念を理解する。
	秋学期	経済学研究科で開講している特殊講義・応用専門科目・修士論文執筆を通じて経済学研究科で得たより専門的な経済学の知識や論理的思考力、データ分析力を活かし、高校「公民」の教育を担える指導力を習得する。

教員養成の目標を達成するための計画

＜商学研究科商学専攻＞（認定課程：高専免（商業））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	商学研究科の教育理念及び認定を受けている専攻の教員養成に関する理念と目的に基づき、商業科教員に必要な問題意識、知識と概念、社会データ分析能力に担保された理論的・実証的・歴史的思考方法を習得し、同時に、教科「商業」の意義と期待される役割を理解し、自らがその教育を担う責任感を強く自覚する。人権に係る倫理観、異文化への理解を積極的に深めようとする意識と姿勢を養成する。
	秋学期	国際性を身につけ、社会経済現象に係る問題を発見し問題の本質を問い、論理的思考と多面的総合的視点から社会経済現象を的確に判断し行動する能力を養成する。「商業」の教育に係る高い専門性を有し、自ら専門分野をもつことの意義を自覚する。多くの主体との共生を積極的に図ろうとする高い意識と姿勢を養成する。
2年次	春学期	教員として、教科「商業」に係る高い専門的知識を体系的に有し、ビジネスマインドに裏打ちされた社会データ解析とプレゼンテーション能力を確立する。
	秋学期	研究演習と修士論文執筆を通じて、商業科教員に求められる総合力を確認するとともに、その総合力をさらに充実し続ける意識と能力を確立する。

教員養成の目標を達成するための計画

＜教育学研究科教育学専攻＞（認定課程：幼専免）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	教育学研究科の教育理念である「子ども理解」を基礎に、「乳幼児教育学理論特殊講義A・B」などを通じて幼児教育全般についての理解を深め、幼児をとりまく様々な環境や教育問題の解決に資する研究に着手する。また、「教育学研究演習」において文献の読み方から、幼児教育研究の分野・対象・方法への理解を深める。
	秋学期	「乳幼児教育思想史特殊講義」、「教育心理学特殊講義」、「乳幼児教育学内容特殊講義(健康)」などを通じて、個々の研究分野関連の理解を深める。さらに、「教育学研究演習」の中では、問題発見・問題解決の能力や論理的思考など、保育の場に適応した専門性の高い幼稚園教諭として必要な資質を向上させる。
2年次	春学期	「乳幼児教育学内容特殊講義(表現・環境・言葉)」を通じて、保育内容に関する高度な知識、理解に関する学習を進める。また、「教育学研究演習」と修士論文執筆の準備を通して、課題に関連する資料の収集、研究の実施、結果の分析、研究発表の諸能力を習熟するとともに、専門領域の知識を習得する。
	秋学期	「教育学研究演習」と修士論文の執筆を通して、課題に関する研究結果の比較・分析、論理的記述の能力に習熟し、必要に応じて特殊講義などの履修により幼児教育学の知識の深化をはかる。さらに、現実 に即した具体的な支援のできる専門性をもった幼稚園教諭としての資質の育成をはかり、研究能力を向上させる。

＜教育学研究科教育学専攻＞（認定課程：小専免）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	教育学研究科の教育理念である「子ども理解」を基礎に、「発達心理学特殊講義B」を通して教職全般について理解を深める。また、「初等教育学内容特殊講義」のいずれかの分野を通して小学校教員に必要な専門的知識を得る。さらに、「教育学研究演習」における文献の読みを通して初等教育研究の分野・対象・方法への理解を深める。
	秋学期	春学期に引き続き、「教育心理学特殊講義」、「教育社会学特殊講義」を通して教職全般についてさらに理解を深める。また、春学期に履修できなかった「初等教育学内容特殊講義」のいずれかを通して、小学校教員に必要な専門的知識を得る。さらに「教育学研究演習」を通して、問題発見・問題解決の能力や論理的思考力など教員として必要な資質を向上させる。
2年次	春学期	1年次に履修できなかった「初等教育学内容特殊講義」を通して小学校教員に必要な専門的知識をさらに深める。また、「教育学研究演習」と修士論文の準備を通して、研究課題の設定、研究の実施、研究結果の分析、研究発表の諸能力に習熟し、教員として必要な研究能力を習得する。
	秋学期	1年次および春学期に履修できなかった「初等教育学内容特殊講義」を通して小学校の教科内容全般について理解を深める。さらに「教育学研究演習」と修士論文の執筆を通して、研究結果の比較・分析・総合、論理的記述の能力に習熟し、教員として必要な研究能力をさらに向上させる。

＜教育学研究科教育学専攻＞（認定課程：中専免(社会)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	教育学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「教育人間学特殊講義」、「臨床教育学特殊講義A」、「臨床教育学特殊講義B」などを通じて子どもの人間形成及び、生徒指導・教育相談、特別支援教育に関する深い学識を形成するとともに、「教育学研究演習」における事例研究を通じて生徒理解の方法を深める。
	秋学期	春学期に引き続き、「中等教育思想史特殊講義」、「中等教育課程特殊講義」、「臨床教育学特殊講義」などを通じて、学校教育に関する高度の知識についての学習を進めるとともに、「教育学研究演習」を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	1年次に履修できなかった「発達心理学特殊講義B」などを通じて、中等教育に要する知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、「教育学研究演習」と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	「教育学研究演習」と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、「特別支援教育学特殊講義」などの履修により知識の深化をはかる。

＜教育学研究科教育学専攻＞（認定課程：高専免(公民)）
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	教育学研究科の教育理念及び、認定を受けている専攻等の教員養成に関する理念に基づき、「教育人間学特殊講義」、「発達心理学特殊講義B」、「臨床教育学特殊講義A」などを通じて子どもの人間形成及び、発達や生徒指導・教育相談に関する深い学識を形成するとともに、「教育学研究演習」における事例研究を通じて生徒理解の方法を深める。
	秋学期	春学期に引き続き、「中等教育思想史特殊講義」、「中等教育課程特殊講義」などを通じて、学校教育に関する高度の知識についての学習を進めるとともに、「教育学研究演習」を通じて問題発見・問題解決・情報収集・論理的思考といった教員として必須な資質の育成をはかる。
2年次	春学期	1年次に履修できなかった「教育方法学特殊講義」「臨床教育学特殊講義B」などを通じて、中等教育に要する知識・技能についての学習をさらに進めるとともに、「教育学研究演習」と修士論文執筆準備を通じて専門領域における教材分析・教材開発に資する能力の育成をはかる。
	秋学期	「教育学研究演習」と修士論文執筆を通じて、自ら設定した課題に対応する資料収集・分析・総合・論理的展開・論述といった教員に必須の資質の育成をはかるとともに、必要に応じて「特別支援教育学特殊講義」などの履修により知識の深化をはかる。

教員養成の目標を達成するための計画

<理工学研究科数理科学専攻> (認定課程:中専免(数学))
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、代数学、代数幾何学、情報幾何学、微分幾何学、確率論、最適化数学における基礎理論を修得し、その理論を活用して考えたり判断したりする態度を身につける。
	秋学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、関数解析、微分方程式、数値解析、非線形問題における基礎理論を修得し、その理論を活用して考えたり判断したりする態度を身につける。
2年次	春学期	代数学、代数幾何学、情報幾何学、微分幾何学、確率論、最適化数学のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して考えたり判断したりして、課題を解決できる能力を身につける。
	秋学期	関数解析、微分方程式、数値解析、非線形問題のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して考えたり判断したりして、課題を解決できる能力を身につける。

<理工学研究科数理科学専攻> (認定課程:高専免(数学))
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、代数学、代数幾何学、情報幾何学、微分幾何学、確率論、最適化数学における基礎理論を修得し、その理論を活用して数学的論拠に基づいて判断する積極的な態度を身につける。
	秋学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、関数解析、微分方程式、数値解析、非線形問題、金融・保険数学における基礎理論を修得し、その理論を活用して数学的論拠に基づいて判断する積極的な態度を身につける。
2年次	春学期	代数学、代数幾何学、情報幾何学、微分幾何学、確率論、最適化数学のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して数学的論拠に基づいて総合的に判断して、課題を解決できる能力を身につける。
	秋学期	関数解析、微分方程式、数値解析、非線形問題、金融・保険数学のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して数学的論拠に基づいて総合的に判断して、課題を解決できる能力を身につける。

<理工学研究科物理・宇宙物理学専攻> (認定課程:中専免(理科))
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ物理学の基礎を踏まえて、さらなる物理学の基礎に対する理解を深めるために、量子力学、相対性理論といった20世紀に発見されて発展した科目を修得し、物理学の基礎・原理から理論的に考えて問題解決へと至る過程を学ぶ。
	秋学期	大学で学んだ物理学の基礎、および春学期に修得した物理学の基礎に加えて、量子力学、相対性理論と並ぶ現代物理学の三本の矢のひとつである、統計力学とその応用分野である物性物理について学ぶことで、中学校理科教員としての、現代物理に対する専門知識を修得する。
2年次	春学期	現代物理の基礎に加えて、物性物理学、生物物理学、宇宙物理学といった物理学の応用分野をさらに深く学ぶことで、現代社会における物理学の意義と重要性に対する正しい認識を身につけ、さらに広い領域で物理学的思考をもちいて問題を捉えることができるようにする。
	秋学期	現代物理の基礎と応用について修得することで、物理学的思考法を基礎とする自然観を形成し、あわせて人類史の中での物理学や自然科学についての固有の見解を自ら思考できる能力を学ぶ。

<理工学研究科物理・宇宙物理学専攻> (認定課程:高専免(理科))
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ物理学の基礎を踏まえて、さらなる物理学の基礎に対する理解を深めるために、量子力学、相対性理論といった20世紀に発見されて発展した科目を修得し、物理学の基礎・原理から理論的に考えて問題解決へと至る過程を身につける。
	秋学期	大学で学んだ物理学の基礎、および春学期に修得した物理学の基礎に加えて、量子力学、相対性理論と並ぶ現代物理学の三本の矢のひとつである、統計力学とその応用分野である物性物理について学ぶことで、高等学校理科教員としての、現代物理に対する専門知識を修得する。
2年次	春学期	現代物理の基礎に加えて、物性物理学、生物物理学、宇宙物理学といった物理学の応用分野をさらに深く学ぶことで、現代社会における物理学の意義と重要性に対する正しい認識を身につけ、さらに広い領域で物理学的思考をもちいて問題を総合的に捉えることができるようにする。
	秋学期	現代物理の基礎と応用について修得することで、物理学的思考法を基礎とする自然観を形成し、あわせて人類史の中での物理学や自然科学についての固有の見解を自ら思考できる能力を学ぶ。

<理工学研究科先進エネルギーナノ工学専攻> (認定課程:中専免(理科))
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ量子力学や物性物理学の基礎を踏まえて、ナノスケール材料の基礎物性、半導体電子工学に基づく低消費エネルギー電子素子の基礎、電気化学等に基づくエネルギー変換材料の基礎を修得し、その理論を活用することで課題解決のために要求される基礎概念の理解を身につける。
	秋学期	大学で学んだ量子力学や物性物理学の基礎を踏まえて、ナノスケール材料の基礎物性、半導体電子工学に基づく低消費エネルギー電子素子の基礎、電気化学等に基づくエネルギー変換材料の基礎を修得し、その理論を活用することで課題解決のために要求される基礎概念の理解を身につける。
2年次	春学期	ナノテクノロジーを基盤とした先進エネルギー科学・工学の分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、課題解決のために要求される基礎概念を理解することで、エネルギー問題を理解するのに必須である物理と化学の知識をしっかりと身に付ける。
	秋学期	ナノテクノロジーを基盤とした先進エネルギー科学・工学の分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、課題解決のために要求される基礎概念を理解することで、エネルギー問題を理解するのに必須である物理と化学の知識をしっかりと身に付ける。

＜理工学研究科先進エネルギーナノ工学専攻＞（認定課程：高専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ量子力学や物性物理学の基礎を踏まえて、ナノスケール材料の基礎物性、半導体電子工学に基づく低消費エネルギー電子素子の基礎、電気化学等に基づくエネルギー変換材料の基礎を修得し、その理論を活用することで課題解決のために要求される基礎概念の理解を身につける。
	秋学期	大学で学んだ量子力学や物性物理学の基礎を踏まえて、ナノスケール材料の基礎物性、半導体電子工学に基づく低消費エネルギー電子素子の基礎、電気化学等に基づくエネルギー変換材料の基礎を修得し、その理論を活用することで課題解決のために要求される基礎概念の理解を身につける。
2年次	春学期	ナノテクノロジーを基盤とした先進エネルギー科学・工学の分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、課題解決のために要求される基礎概念を理解することで、エネルギー問題を理解するのに必須である物理と化学の知識をしっかりと身に付ける。
	秋学期	ナノテクノロジーを基盤とした先進エネルギー科学・工学の分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、課題解決のために要求される基礎概念を理解することで、エネルギー問題を理解するのに必須である物理と化学の知識をしっかりと身に付ける。

＜理工学研究科化学専攻＞（認定課程：中専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえ、物理化学、無機化学、有機化学分野における基礎理論を修得し、その理論を活用することで課題解決のために要求される基礎概念の理解を身につける。
	秋学期	大学で学んだ基礎を踏まえ、物理化学、分析化学、有機化学分野における基礎理論を修得し、その理論を活用することで課題解決のために要求される基礎概念の理解を身につける。
2年次	春学期	物理化学、解析系化学、有機化学分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、課題解決のために要求される基礎概念を理解することで、生徒に化学分野への関心を抱かせることができる能力を身につける。
	秋学期	物理化学、解析系化学、有機化学分野において、さらに専門性の高い課題に主体的に取り組み、課題解決のために要求される基礎概念を理解することで、生徒に化学分野への関心を抱かせることができる能力を身につける。

＜理工学研究科化学専攻＞（認定課程：高専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえ、物理化学、無機化学、有機化学分野における基礎知識を修得し、その知識を活用することにより化学的論拠に基づき課題解決する能力を身につける。
	秋学期	大学で学んだ基礎を踏まえ、物理化学、分析化学、有機化学分野における基礎知識を修得し、その知識を活用することにより化学的論拠に基づき課題解決する能力を身につける。
2年次	春学期	物理化学、解析系化学、有機化学分野における専門性の高い課題への主体的な取り組みによって修得した知識を活用し、化学的論拠に基づき多様な課題を解決する能力、および教育現場で通用する授業実践力を身につける。
	秋学期	物理化学、解析系化学、有機化学分野におけるより専門性の高い課題への主体的な取り組みによって修得した知識を活用し、化学的論拠に基づき多様な課題を解決する能力、および教育現場で通用する授業実践力を身につける。

＜理工学研究科環境応用化学専攻＞（認定課程：中専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえ、環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野における基礎理論を習得し、その理論を活用することで課題解決のために必要な基礎概念を理解するとともに、課題に主体的に取り組む姿勢を身につける。
	秋学期	1年次春学期に続いて、環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野における基礎理論を習得し、その理論を活用することで課題解決のために必要な基礎概念をさらに深く理解するとともに、課題に主体的、継続的に取り組む姿勢を身につける。
2年次	春学期	環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野において、専門性の高い研究課題に主体的に取り組み、教育現場で通用する課題解決能力を養うとともに生徒に理科への関心を抱かすことができる能力を身につける。
	秋学期	2年次春学期に続いて、環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野において、さらに専門性の高い研究課題に主体的、継続的に取り組み、教育の現場で活かすことができる課題解決能力、授業実践力、生徒への対応力を身につける。

＜理工学研究科環境応用化学専攻＞（認定課程：高専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえ、環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野における基礎的な知識と技術を習得し、それらを活用することによって課題解決のために必要な基礎概念を理解するとともに、課題に主体的に取り組む姿勢を身につける。
	秋学期	1年次春学期に続いて、環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野における基礎的な知識と技術を習得し、それらを活用することによって課題解決のために必要な基礎概念をさらに深く理解するとともに、課題に主体的、継続的に取り組む姿勢を身につける。
2年次	春学期	環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野において、専門性が高くかつ最先端の研究課題への主体的な取り組みによって、習得した知識を活用し、多様な課題を解決する能力を身につける。
	秋学期	2年次春学期に続いて、環境分析・地球化学分野、機能探索分野、物質創成分野において、さらに専門性の高い最先端の研究課題への主体的、継続的な取り組みにより、習得した知識を活用し、多様な課題を解決する能力とともに、教育現場で通用する授業実践力や指導力、職務遂行能力とモラルを身につける。

＜理工学研究科生物科学専攻＞（認定課程：中専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、発生生物学、細胞周期、分子系統進化学の分野において知識の専門性を学び、その専門性を活かした判断能力（自ら考える力）を涵養する。
	秋学期	細胞生物学、構造生物学、生物の分子レベルでの環境応答分野において知識の専門性を学び、その専門性を活かした判断能力を涵養すると同時に、研究室での実験指導、TA活動を通じて実践的指導能力を身につけ、受講者に関心を抱かせる能力を養う。
2年次	春学期	器官形成学、細胞の構造と機能、微生物の環境応答の分野において、知識の専門性を学び、その専門性を活かした判断能力を涵養する。中間発表会を通して、専門性の高い研究内容を専門外の対象者に対しても分かりやすく発信する能力を身につける。
	秋学期	神経組織構築学、植物環境生理学、免疫学において、知識の専門性を高め、微生物から高等生物に至る生物学知識の集大成をはかる。学会、研究会等で発表し、これまでに履修した専門性の高い知識を、研究の場に活かす実践力を身につける。また修士論文の作成と発表会を通じて、文書と口頭での情報発信能力を高める。

＜理工学研究科生物科学専攻＞（認定課程：高専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、発生生物学、細胞周期、分子系統進化学の分野において知識の専門性を高め、その専門性を活かした総合的な判断能力（自ら考える力）を涵養する。
	秋学期	細胞生物学、構造生物学、生物の分子レベルでの環境応答分野において知識の専門性を高め、その専門性を活かした判断能力を涵養すると同時に、研究室での実験指導、TA活動を通じて実践的指導能力を高め、教育者としての職業モラルを養う。
2年次	春学期	器官形成学、細胞の構造と機能、微生物の環境応答の分野において、知識の専門性を高め、その専門性を活かした判断能力を涵養する。中間発表会を通して、専門性の高い研究内容を専門外の対象者に対しても分かりやすく発信する充分な能力を身につける。
	秋学期	神経組織構築学、植物環境生理学、免疫学において、知識の専門性を高め、これまでに履修した専門性の高い知識を、総合的に研究の場に活かす実践力（基礎的研究能力）を養う。また修士論文の作成と発表会を通じて、文書と口頭での情報発信能力を高める。

＜理工学研究科生命医科学専攻＞（認定課程：中専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、環境医化学、薬理学、発癌分子機構の分野において知識の専門性を学び、その専門性を活かした判断能力（自ら考える力）を涵養する。
	秋学期	エピゲノム医化学、生命情報科学の分野における生命に関する知識の専門性を学び、その専門性を活かした判断能力を涵養すると同時に、研究室での実験指導、TA活動を通じて実践的指導能力を身につけ、受講者に関心を抱かせる能力を養う。
2年次	春学期	脳神経科学、生体システム解析の分野において、知識の専門性を学び、その専門性を活かした判断能力を涵養する。中間発表会を通して、専門性の高い研究内容を専門外の対象者に対しても分かりやすく発信する能力を身につける。
	秋学期	発生再生医学、生体工学の分野において、知識の専門性を高め、ヒトを含む哺乳類を中心とした医化学の知識の集大成をはかる。学会、研究会等で発表し、これまでに履修した専門性の高い知識を、研究の場に活かす実践力を身につける。また修士論文の作成と発表会を通じて、文書と口頭での情報発信能力を高める。

＜理工学研究科生命医科学専攻＞（認定課程：高専免（理科））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、環境医化学、薬理学、発癌分子機構の分野において知識の専門性を高め、その専門性を活かした総合的な判断能力（自ら考える力）を涵養する。
	秋学期	エピゲノム医化学、生命情報科学の分野における生命に関する知識の専門性を高め、その専門性を活かした判断能力を涵養すると同時に、研究室での実験指導、TA活動を通じて実践的指導能力を高め、教育者としての職業モラルを養う。
2年次	春学期	脳神経科学、生体システム解析の分野において、知識の専門性を高め、その専門性を活かした判断能力を涵養する。中間発表会を通して、専門性の高い研究内容を専門外の対象者に対しても分かりやすく発信する充分な能力を身につける。
	秋学期	発生再生医学、生体工学の分野において、知識の専門性を高め、これまでに履修した専門性の高い知識を、総合的に研究の場に活かす実践力（基礎的研究能力）を養う。また修士論文の作成と発表会を通じて、文書と口頭での情報発信能力を高める。

＜理工学研究科情報工学専攻＞（認定課程：中専免（数学））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、代数学、代数幾何学、情報幾何学、微分幾何学、確率論における基礎理論を修得し、その理論を活用して考えたり判断したりする態度を身につける。
	秋学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、解析学、数値解析、非線形問題、等における基礎理論を修得し、その理論を活用して考えたり判断したりする態度を身につける。
2年次	春学期	情報システム系、ネットワークシステム系のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して考えたり判断したりして、課題を解決できる能力を身につける。
	秋学期	情報システム系、ネットワークシステム系のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して考えたり判断したりして、課題を解決できる能力を身につける。

<理工学研究科情報工学専攻> (認定課程:高専免(数学))
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、代数学、代数幾何学、情報幾何学、微分幾何学、確率論における基礎理論を修得し、その理論を活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。
	秋学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、関数解析、微分方程式、数値解析、非線形問題、金融・保険数学における基礎理論を修得し、その理論を活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。
2年次	春学期	情報システム系、ネットワークシステム系のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して数学的論拠に基づいて判断して、課題を解決できる能力を身につける。
	秋学期	情報システム系、ネットワークシステム系のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して数学的論拠に基づいて判断して、課題を解決できる能力を身につける。

<理工学研究科情報工学専攻> (認定課程:高専免(情報))
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、情報理論、アルゴリズム理論、知識情報処理、分散処理システム、などにおける基礎理論を修得し、その理論を活用して工学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。
	秋学期	大学で学んだ基礎を踏まえて、離散数学、マルチスケールシミュレーション、などの基礎理論を修得し、その理論を活用して数学的・工学的論拠に基づいて判断する態度を身につける。
2年次	春学期	情報システム系、ネットワークシステム系のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して数学的・工学的論拠に基づいて判断して、課題を解決できる能力を身につける。
	秋学期	情報システム系、ネットワークシステム系のいずれかの分野において、専門性の高い課題に主体的に取り組み、学んだ基礎理論を活用して数学的・工学的論拠に基づいて判断して、課題を解決できる能力を身につける。

教員養成の目標を達成するための計画

＜言語コミュニケーション文化研究科言語コミュニケーション文化専攻＞（認定課程：中専免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	研究科の教員養成に対する理念に基づき、言語コミュニケーション能力養成科目の履修を通じて、実際のな言語コミュニケーション能力を身につけることを当面の目標とする。その上で、効果的な言語（英語）教育のありかたについての基本的な考え方、方法論の概要を修得する。
	秋学期	春学期に引き続き、言語コミュニケーション能力の養成をさらに継続し、同時に、英語の文章を書く等、英語による発信能力の育成をはかる。併せて、バイリンガリズム、言語学習心理や第二言語習得の理論など、中学校の英語教職の前提となる基本的な知識体系を身につけることを目標とする。
2年次	春学期	将来教職に就くために必須であると考えられる英語の教育法についての実践的知識の修得をはかるとともに、それらの背後にある英語の音声や言語表現の特性をもとに、人間の言語使用に関する諸領域を踏まえた理論的概念を身につける。その上で、修士・課題研究論文執筆に取りかかるための準備体制を整える。
	秋学期	最終学期には、修士・課題研究論文作成と平行して、具体的なカリキュラム開発に直接応用可能な知識や、異文化に対する理解をさらに促進することを旨とした科目を修得することで、グローバルな視野を持ちながら、教育現場における現代的なニーズに応える能力を身につける。

＜言語コミュニケーション文化研究科言語コミュニケーション文化専攻＞（認定課程：高専免（英語））
各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	研究科の教員養成に対する理念に基づき、言語コミュニケーション能力養成科目の履修を通じて、英語による討論など実際のな言語コミュニケーション能力を身につけることをまずは目標とする。その上で、効果的な言語（英語）教育のための調査・研究をいかに始めるか、その方法論の概要を修得する。
	秋学期	春学期に引き続き、言語コミュニケーション能力の養成をさらに継続し、同時に、英語で研究論文等を書く能力の育成をはかる。併せて、バイリンガリズム、言語学習心理や心理言語学の理論など、高等学校の英語教職の前提となる基本的な知識体系を身につけることを目標とする。
2年次	春学期	将来教壇に立った際に検討すべき授業運営について、その改善のためにいかに授業を分析するかについて学習するとともに、授業現場での指導の背後にある言語の本質や社会と言語の関わりに関する理論的概念をもとに、言語データを研究にいかに活用するかについての知見を身につける。その上で、修士・課題研究論文執筆に取りかかるための準備体制を整える。
	秋学期	最終学期には、修士・課題研究論文作成と平行して、具体的な教育評価に活用できる知識や、異文化に対する理解をさらに促進することを旨とした科目を修得することで、グローバルな視野を持ちながら、教育現場における現代的なニーズに応える能力を身につける。